

食事で生活を豊かにするために

K大学：看護栄養学部・栄養学科・3年

期間：平成30年9月3日～7日（5日間）

私は今回、N病院でインターンシップを実施させていただきました。5日間という短い期間でしたが、管理栄養士という仕事の大変さや魅力を知ることができました。5日間を通して、食材の下処理から、調理、盛り付け、トレイメイクなど、患者様へ実際に提供する食事の一連の調理作業を体験させていただきました。加えて、栄養士業務や仁保病院で行われているニュークックチルシステムの説明、食事風景の見学などもさせていただきました。ニュークックチルシステムを導入されている病院は全国的にも少なく、また学校の給食実習でも行うことがないため、貴重な体験を多くさせていただきました。

N病院は認知症の方が入院されている病院で、入院後は看取りまで入院されている方も多いそうです。その中で、徐々に状態が悪くなられるのですが、可能な限り最期まで口からお食事をしていただくことを目指していらっしゃいました。実際にお話を伺った中でも、飲食店を経営されていた患者様へ、お店を出していた食べ物を毎日提供されていました。栄養面では偏りが生じてしまいましたが、患者様のこれまでの歴史を尊重し、食べられるものを食べていただくことで、患者様のQOLの向上を目指されていました。管理栄養士として、患者様のお食事の能力だけでなく、今までの生活史までも把握してお食事を提供する必要があることに改めて気づくことができました。

また、仁保病院では、2～3日分の食事をまとめて下処理、調理を行い、それをチルドの状態で作成保存されていました。その後、提供する前日にお皿に盛り付けし、特殊な再加熱カートで冷蔵保存し、提供直前に再加熱をすることで衛生的に美味しい食事を提供されていました。加えて、患者様の咀嚼・嚥下能力や食事量などの状態を反映し、刻み食やソフト食、ムース食等様々な形態の食事を提供されていました。実際に患者様に何を提供するかが記載された食札を確認しながら、患者様へ提供する食事を組み合わせお盆にのせていく作業をさせていただきましたが、同じ組み合わせの患者様がいらっしゃらないぐらい食事の種類が多様で、正確に素早くお皿を乗せていくのは非常に大変でした。しかし、このシステムを施行することで、調理者の負担の軽減や衛生面の向上ができるため、非常に有効な方法であると感じました。また、一緒に作業をさせていただいた調理師の方も、ニュークックチルシステムを実施することで、1日3回食事の調理を行う必要がある病院とは異なり、朝早くから出勤する必要がないため、非常に働きやすい環境であると言われていました。管理栄養士は、栄養部のまとめ役として職場づくりも重要な業務の一つですが、私もいかに調理師の方が働きやすいかまで考えた環境作りをしていきたいと思いました。

今回のインターンシップで、管理栄養士だけでできる業務はないという事を実感し、他の職種の方から信頼され、患者様の生活がより良いものとなるよう支援できる管理栄養士になりたいと思うようになりました。5日間の実習で、私自身多くの課題を見つけたため、これからの課題としていきたいと思います。実習期間中は、初めての事ばかりで不慣れなため、多くの方々に大変ご迷惑をおかけした事と思います。職員の方たちには、色々なことをたくさん教えていただき、感謝の念に堪えません。本当にありがとうございました。

仕事の大変さと魅力

Y J 大学：文学部・日本文学科・3年

期間：平成29年9月13日～15日（3日間）

私は、今回のインターンシップで、病院にて研修をさせていただきました。3日間という短い期間でしたが、医療事務という仕事の大変さや魅力を知ることができました。

私が体験させていただいた主な業務内容は、カルテを検索し、カルテを探して外来に持っていくこと、カルテの整理や今年の8月以前に最終来院された方のカルテを別の保管場所に移動させる作業、電子カルテに診療情報を入力すること、会計処理、業務内容の見学（カルテの探し方、患者さんとの接し方、電話対応など）、入院案内の資料をまとめることなどです。普段の生活ではできないような体験を多くさせていただきました。カルテを整理することで、カルテを見つけるまでの時間を短縮することができ、患者さんが来院され、早く受付をするための工夫がされているのだということを知ることができました。また、電子カルテに診療情報を入力し、診療点数を漏れなく計算して会計処理を行う業務では、パソコンがデータを読み取ってくれることもありますが、最終的に人の手で確認され、正確さを問われる仕事も大切になってくるということも分かりました。電子カルテに入力する業務や、カルテを検索して外来に持っていくまでの手順を覚えることは大変だと、業務を経験してみて感じました。また、職員の方のお話を伺う中で、難病の種類が増えたり、手続きをする内容が増えたりしていくことを学びました。医療事務という仕事は、就職してからも勉強をしていくことができなければ勤まらない仕事であると感じました。また、私が想像していた以上に仕事の幅が広く、他の部署との関わりも多くあるということを知りました。

私は医療事務の勉強を初めて間もなかったのですが、私にも分かりやすいように、職員の方がひとつひとつ丁寧に優しくご指導してくださいました。さらに、私が業務を体験させていただいている間は、仕事が滞り、スムーズに業務がはかどらないにも関わらず、多くのことを体験させていただきました。私を指導しつつ同時に仕事をこなしていくのは容易なことではないはずなのに、患者さんが来院された際には、その人に合った丁寧な対応をされていて、感銘を受けました。電話対応も焦ることなく、患者さんから必要な情報を聞き出し、早急に対応されていた姿が印象に残っています。お医者さんや看護師さんとの連携もしっかりとされていて、患者さんのことを想って仕事をされているのだということが分かりました。私はそんな職員さんたちの姿を見て、私も医療事務という仕事に就いて、職員さんたちのように周りに気を配り、患者さんや様々な部署との関わりを大切にできるような働き方をしたいと思うようになりました。

私は、このインターンシップを通して、医療事務の仕事に就きたいという気持ちが一層強くなりました。レセプト作成や会計処理、様々な患者さんとの接し方や、仕事を始めてからも覚えることがどんどん増えていくことなど、大変なことがたくさんある仕事だと知りました。しかしそれ以上に、その大変なことがやり遂げられた時、大きな喜びに繋がるということも教えていただきました。ご指導して下さった職員の方々のように、物事に柔軟に対応できるような医療事務員になれるよう、これからの学生生活においても意識を高く持つようにして過ごしていきたいと思えます。

「患者さんにとっての家」

T大学：人間科学部・心理臨床・こども学科・2年

期間：平成28年8月24日～30日（5日間）

私は、高校3年生の冬、膝の怪我で入院したことをきっかけに、看護師になりたいと思うようになりました。今回のインターンシップでは、慢性病院の病棟や訪問看護や介護施設の現場に訪問させて頂きました。

最初の3日間は、病棟で研修を受けました。一日目が終了して思ったのが、体力のいる仕事だと思ったことです。慢性病院ということでお年寄りがほとんどであるため、看護師は、看護と介護の両方をしなくてはならず、体力的に辛い場面がありました。しかし、そんな時、患者さんの笑顔が見られたり、「ありがとう」と言われたりすると、疲れていたことなんか忘れてしまいました。これが看護師としてのやりがいの一つなのだと実感しました。今回、病棟では、たくさんの体験や急性病院ではあまり見ることの出来ない珍しい治療の見学もさせて頂きました。一日に何度も行き患者さんの様子を共有し合うカンファレンスは、一人ひとりの変化も見逃すことなく観察しているのが分かりました。また、介護福祉士さんやケアマネジャーさんなどと連携したシステムで、患者さんの情報が随時更新されているのを間近で見学させてもらい、刺激を受けました。その他にも、バイタルサインや点滴で伺った少しの間で、患者さんとコミュニケーションを取って、病状だけでなく、心情のことまで確認している姿を見て、意味のない行動はないのだと気付きました。看護師長さんからは、「看護の質を上げるには、誰が対応しても同じように看護することが大切である」と教わり、とても勉強になりました。この言葉は、私の心に今でも響いています。

今回、体験もたくさんさせて頂きました。中でも、おむつ交換は、手伝わせて頂く機会が多かったため、徐々に上達してきて嬉しかったです。大変だったのが入浴介助で、寝たきりの患者さんの更衣は、力が必要で汗だくになりました。それでも風呂から上がり、髪を乾かしてあげるとさっぱりした様子で入浴介助をした甲斐があったと思えました。訪問看護でも看護と介護に関しては、ほとんど病棟と同じようなことをしましたが、やはり、一人ひとりに長い間目を向けられるという点に魅力を感じました。コミュニケーションを取れる喜びを、改めて実感出来て良かったです。介護施設では、看護師が与える安心感があると気付きました。医療知識のある看護師が頼られる場所の一つだと思いました。

今回、インターンシップを受けるまでは、ただ漠然と看護師として病棟で働きたいとしか思っていませんでしたが、今は違います。病院は急性期と慢性期どちらが自分に向いているか、訪問看護という働き方もあるのか、など、看護師としての働き口の広さを知ったことで、職場選択の視野が広がりました。また、実際に現場の職員さんと同じ一日を過ごすことで、看護師に必要な要素や仕事の大変さ、やりがいをたくさん見つけることが出来ました。私は、インターンシップを行う前より、強く看護師になりたいと思えるようになりました。これから、将来に希望をもって前向きに頑張りたいと思います。

福祉施設の仕事を体験したこと

T大学：福祉情報学部・人間コミュニケーション学科・1年
期間：平成27年9月14日～18日（5日間）

今回のインターンシップで、福祉施設に、5日間実習に行きました。私は、これまで一度もこのような実習をしたことがありませんでした。なので、実習前は、障害を持った方々や職員の方たちと上手くコミュニケーションが取れるか、またきちんと業務できるか不安でたまりませんでした。しかし、将来の進路選択として福祉の仕事に興味があったので、福祉とはどのようなことをするものか自分の目で見て勉強したく、このインターンシップを受けることにしました。

私は実習初日に施設に入り、各部署の職員方に挨拶をするときに、大きな声で挨拶をしようと思っ
ていましたが、緊張して少し声が小さくなってしまいました。そこは今後、克服していきたいです。

期間中の内容としては、私は卒業後、社会福祉士を希望しているので、主に、高齢者や障害をお持ちの方々とお話をさせていただきました。特に認知症の方が多く、はじめて対応した為に困惑する時が何回かありました。しかし、職員さん方は、どんな質問をされても困った様子もなく機敏に対応されていたので、「すごいな」とか、「私も、どんな質問されてもすぐ対応できるようになりたい」と思いました。

他にも、シーツ交換をしたり、施設内の草取りをしたり、車椅子・プライバシー保護・老健施設サービス・認知症・高齢者の食事・高齢者虐待・接遇・リハビリ機器についての説明を聞いたり、老人会・敬老会に参加して福祉の職業の大変さや様々な業務内容があることがわかりました。

初日は、すごく緊張しましたが、2日目からは徐々に対応できました。最初は、自分からは、なかなか話しかけることが出来ず、職員の方に勧められて高齢者・障害者の方々と話しをしたのですが、最後には、自分から積極的に話しかけられるようになりました。この5日間の実習で、福祉の仕事に以前よりも興味をもちましたし、社会福祉士・介護福祉士というのが、どんな仕事をするものなのかがよく分かり、大変勉強になりました。

5日間の実習で、私自身の課題が数多く見つかったので、これからきちんと修正していきたいと思
います。

実習期間中は、初めての事ばかりで不慣れなため多くの人に大変ご迷惑をおかけしたと思います。職員の方たちには、色々なことをたくさん教えていただき、本当に感謝しています。なので、この経験を無駄にはしないで、大学でしっかりと勉強して、卒業後には立派な社会福祉士になれるように努力していきたいと思
います。

病院でのインターンシップ

人から必要とされる人材に

Y専門学校：医療事務科・1年

期間：平成26年7月28日～8月1日（5日間）

私は、病院で実習するという経験を、これまで一度もしたことがありませんでした。そのため、患者様や職場の方と上手く会話ができるか、きちんと業務ができるか、と不安でたまりませんでした。

初出勤の日は、特に緊張しました。荷物を置いたものの、朝礼まで何をすればいいのか分からず、ただ立っただけでした。何かをしなければいけないと思っただけのもの、忙しそうにされている職員の方々に声を掛けることが出来ませんでした。

しかし、一日目の終わりに、掃除の仕方を職員の方に聞き、翌日から毎朝掃除をすることが出来るようになりました。朝の掃除は、十五分程度と短いものではありませんでしたが、患者様から、「丁寧に行っているね」と褒めていただけたり、すれ違う人に明るい挨拶を職員全員がされているという素晴らしさに気付いたり、とても清々しく気持ちの良い一日を始めることが出来る様になりました。

この五日間の中で私は、入院医事務・受付・診察補助・予防検診業務・在宅医療・会計業務・診療情報管理・レセプト点検と様々な業務をさせていただきました。

病院で行われているお仕事を、目の当たりにし、実際に体験することで、発見や感じたことが多くありました。その中でも、特に心に残った業務が、診察補助と会計業務でした。最初に院長先生より、「どうぞ」「お大事になさいます」を必ず言うこと、言葉遣いを丁寧にする、患者様と職員の方の顔と名前を憶えること、というアドバイスをいただきました。院長先生がおっしゃった、「あなたならできる」という言葉がとても励みになりました。

私が特に緊張したのが、患者様をお呼びする時でした。私は、日頃から声が小さいと言われていたり、聞き返されたりすることも多いので、きちんとお呼び出来るか不安でした。案の定、違う患者様が来てしまったり、声が聴き取りづらい方への配慮が不足、自分が呼ばれていると患者様が気付かなかったりという場面もありました。周りの方に迷惑を掛けてしまい、落ち込むこともありました。

しかし、私の呼び掛けに対して返事をして下さる方や、笑顔で接して下さる方、「頑張ってるね」と声を掛けて下さる方、手を握って下さる方もいらっしゃって、とても温かくて嬉しく思いました。

会計業務を担当したのが、患者様の多い午前中でした。早くしなければという焦りと、患者様一人一人に対し、笑顔で優しく丁寧な対応を心掛けることは大変でしたが、病院の受付という私の憧れの業務を実際に体験することができ、ますます医療事務員に就きたいという想いが強くなりました。

担当の方々も優しい方ばかりで、毎日がとても充実した五日間でした。

私が、医療事務の仕事内容を初めて知ったのは、高校二年生の頃でした。そして今回、初めて病院での実習を体験させていただき、仕事の大変さと忙しさと同時に、人と関わることで感じられる、温かさと楽しさを、身を持って知ることが出来ました。

この様な雰囲気の良い、安心して働ける場所で働きたいと強く思い、仕事においても人としてももっと必要とされる人材になりたいと、実習を通して感じました。